

受難の主日 2017.4.9

受難朗読について

マタイ福音書 27:11-54

イエスは総督の前に立たれた。総督がイエスに尋問した。

「お前がユダヤ人の王なのか」イエスは言われた。「それは、あなたが言っていることです」

祭司長たちや長老たちから訴えられている間、これには何もお答えにならなかった。ピラトは言った。「あのようにお前に不利な証言をしているのに、聞こえないのか」それでも、どんな訴えにもお答えにならなかったため、総督は非常に不思議に思った。

ところで、祭りの度ごとに、総督は民衆の希望する囚人を一人釈放することになっていた。そのころ、バラバ・イエスという評判の囚人がいた。ピラトは、人々が集まって来たときに言った。「どちらを釈放してほしいのか。バラバ・イエスか。それともメシアといわれるイエスか。」人々がイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。一方、ピラトが裁判の席に着いているときに、妻から伝言があった。「あの正しい人に関係しないでください。その人のことで、わたしは昨夜、夢で随分苦しめられました。」しかし、祭司長たちや長老たちは、バラバを釈放して、イエスを死刑に処してもらうようにと群衆を説得した。そこで、総督が言った。「二人のうち、どちらを釈放してほしいのか」と言うと、人々は、言った。「バラバを」ピラトが言った。「では、メシアといわれているイエスの方は、どうしたらよいか」皆は、言った。「十字架につけろ」ピラトは言った。「いったいどんな悪事を働いたというのか」群衆はますます激しく叫び続けた。

「十字架につけろ」ピラトは、それ以上言っても無駄なばかりか、かえって騒動が起こりそうなを見て、水を持って来させ、群衆の前で手を洗って言った。「この人の血について、わたしには責任がない。お前たちの問題

だ。」民はこぞって答えた。「その血の責任は、我々と子孫にある。」そこで、ピラトはバラバを釈放し、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。

それから、総督の兵士たちは、イエスを総督官邸に連れて行き、部隊の全員をイエスの周りに集めた。そして、イエスの着ている物をはぎ取り、赤い外套を着せ、茨で冠を編んで頭に載せ、また、右手に葦の棒を持たせて、その前にひざまずき、侮辱して言った。「ユダヤ人の王、万歳」 また、唾を吐きかけ、葦の棒を取り上げて頭をたたき続けた。このようにイエスを侮辱したあげく、外套を脱がせて元の服を着せ、十字架につけるために引いて行った。兵士たちは出て行くと、シモンという名前のキレネ人に出会ったので、イエスの十字架を無理に担がせた。そして、ゴルゴタという所、すなわち「されこうべの場所」に着くと、苦いものを混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはなめただけで、飲もうとされなかった。彼らはイエスを十字架につけると、くじを引いてその服を分け合い、そこに座って見張りをしていた。イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを掲げた。折から、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右にもう一人は左に、十字架につけられていた。そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって、言った。「神殿を打ち倒し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」同じように、祭司長たちも律法学者たちや長老たちと一緒に、イエスを侮辱して言った。「他人は救ったのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう。神に頼っているが、神の御心ならば、今すぐ救ってもらえ。『わたしは神の子だ』と言っていたのだから。」一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスをののしった。

さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。そこに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「この人はエリヤを呼んでいる」と言う者もいた。そのうちの一人が、すぐに走り寄り、海綿を取って酸いぶどう酒を含ませ、葦の棒に付けて、イエスに飲ませようとした。ほかの人々は、「待て、エリヤが彼を救いに来るかどうか、見ていよう」と言った。しかし、イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体が生き返った。そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた。百人隊長や一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、言った。「本当に、この人は神の子だった。」

説教

朗読は毎週朗読している福音のなかでも最も大切にされている箇所です。昔からイエスの受難日、聖金曜日（今年は4月14日）に朗読されてきましたが、いまの朗読配分では枝の主日（パームサンデー）イエスのエルサレム入場の主日に朗読します。もちろん聖なる過越の三日間（木金土）も受難朗読をおこないます。4月13日から配分箇所を示しておきます。

4月13日（木） ヨハネ13：1-15

4月14日（金） ヨハネ18：1-19：42

4月15日（土） 朗読指定箇所はなく断食が薦められ、復活徹夜祭へと続きます。

いま朗読した箇所に加えてマタイ26：14-27、27：66までの長い形もあります。受難朗読内容をおさらいする意味で本田哲郎神父訳「小さくされた人々のための福音」から見出しを抜粋します。

26：14-16 弾圧される緊張の中、「12人」の一人がねがえる

- 26 : 17-19 「ほふられる子羊」 = イエスのための「過越」の準備
- 26 : 20-25 過越の食卓で、親しい仲間による裏切りを明らかにする
- 26 : 26-30 エジプト脱出の過越とかさなる、新しい契約の食事
- 26 : 31-35 ペトロの裏切りの予告～小さくされた者の弱さと強がり
- 26 : 36-46 ゲッセマネで、自分の弱さをさらけだして祈る
- 26 : 47-56 ユダの接吻で、イエスが逮捕され、弟子たちは離散する
- 26 : 56-68 ユダヤ衆議会最高法院は「冒とく罪」でイエスに死刑の最低を下す
- 26 : 69-75 死の弾圧への恐怖から、イエスの仲間と言えなかったペトロ
- 27 : 1- 2 イエスの身柄は、宗教権力者から政治の権力者に引きわたされる
- 27 : 3-10 ユダは、イエスを裏切ったことを後悔し、自殺する
- 27 : 11-14 イエス、沈黙をもってピラトの司法権を否定する
- 27 : 15-26 イエス、死刑の宣告を受ける
- 27 : 27-31 イエス、ローマ軍の兵士たちのなぶりものにされる
- 27 : 32-44 十字架につけられてなお、あざけりを受ける
- 27 : 45-56 イエス、十字架の上で息をひきとる
- 27 : 57-61 低みに立つ覚悟をきめた地位ある裕福な人が、イエスの埋葬に協力する
- 26 : 62-66 墓に見張りをつける

一人ひとりがイエスさまの受難をこころに刻むことができますように。